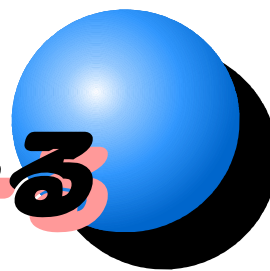




ゆい

・まーる



★VOL 15 令和3年8月3日発行



今月号は、学校が夏休みで配布できないため、絵本特集！

絵本の楽しさをあそび分け

■「こねこのきょうだい かぞえうた おふろ」

石津ちひろ／文 石黒亜矢子／絵

文はリズムカルで口にしやすく、センス抜群の絵が文と絡みあい、親子一緒に声を合わせて読める作品。



●模様の違う3匹の兄弟子ねこが1から10までの数え歌に合わせた絵は、どのページも楽しそう。模様の違いが愛らしさを引き立てています。●「おふろ」「おやつ」「おやすみ」の3冊セット。●1歳半くらいからどうぞ。

■「どんめくり」 やぎたみこ／作

繰り返して遊べる絵本。●〈丼（どんぶり）ご飯〉を題材にして、各ページが上下に分かれています。最初のページは、上が〈天ぷら〉で下は〈丼〉、それを下だけページをめくると〈天ぷらラーメン〉に！●この絵本の楽しさは、何ページかを飛ばして上下を組み合わせて楽しむこと。たとえば〈野菜パンケーキ〉になったり、〈野菜う



どん〉などに変化します。そしてページを進めると下の絵は食べ物とは関係なく、〈こんなのあり！？〉の世界になっていきます。●じょうぶなボードブックなので、ぼうだいな組み合わせを親子で笑いながら楽しめます。●食べ物やモノの名前が分かる2歳くらいから。

■「びりびり」 中新井純子／作

文と絵をセットで楽しむ絵本。「びりびり ぴっ」など短い文がおもしろい音の響きになり、それに合わせて瞬間的に変化…言葉

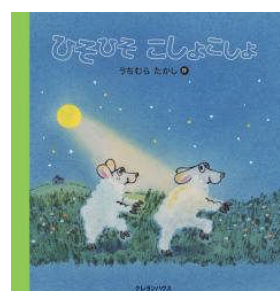


を知らない赤ちゃんでも思わず音と絵に反応するかも。「ぷっ」「ぱっ」「によろ」「ぴょん」などの擬音語が絵と一緒に目と耳に飛び込んでくるので、1歳前の子どもでも読んであげたら笑い出しそう。

■「ひそひそ こしょこしょ」

うちむらたかし／作

表紙に〈ささやきごえでよむえほん〉の添え書き。●ヒツジの兄弟が真



夜中にベッドを抜け出し、月明かりの中で散歩をします。しーんと静まりかえった森の奥の原っぱで何かがパーティの食事をしています。楽しそうでちょっぴり怖い…。

●早めに寝てしまう子どもたちにとって、真夜中のことは体験できないふしぎな世界です。ヒツジの兄弟とともに、ひっそりとした散歩をワクワクしながら楽しめます。

●3歳くらいから。

■「しましましましよ」

北村人／作

5つの色とし
ましまの線
で遊ぶ作品。シマ
ウマがネコに「し



ましましませんか」と誘い、ネコの体に5色でしましまを描きます。ステキなしましまもようができました。お次は魚、そしてシマウマが林の中や町の中を歩いて行くとあっちもこっちも〈しましま〉だらけに。

●色や線に反応する1歳過ぎの子に。

■「おてんきガールズ きせつのおでかけ」

アキ／作 木坂涼／訳

世界中の子どもたち
に向けて作られた
作品。●主人公は16
人のお天気ガールズ。



お話が始まる前のページで16人の女の子を紹介。同じように見えるスタイルながら1人ずつ名前があり、髪型や髪と皮膚の色が違い、これは世界中の誰もが主人公なんだよとのメッセージ、心憎い演出です。●お天気ガールズは、夏から始まる季節をみんなで心おきなく楽しめます。それぞれの個性が引き立つよう色づかいや表情を豊かに描き、読んでもらう子どもたちは自然と〈いろいろな子どもがいて当たり前〉という感覚が身につくことでしょう。●16人と一緒に四季の移ろいを感じながら楽しむことができます。●5歳くらいから。

■「なんだか たのしそう」

古内ヨシ／作

最初と最後のページ
の他は、〈笑い〉

にあふれています。●とても静かな日、ライオンのお父さんがあくびのついでにかわいいオナラをします。ここから〈なんだか 楽しそう〉の世界が始まります。ライオンの子どもたちからハゲワシ、ハイエナ…アフリカの動物たちへ次々と〈なんだか 楽しそう〉が広がっていき…読んでもらう子どもたちも〈なんだか 楽しそう〉の気分を十分に味わえます。絵が楽しい！●2歳半くらいから。



■「ゆびたこ」くせさなえ／作

子どもの頃につい
指をしゃぶ

っていたという人はけ
っこういると思いま
す。●もうすぐ1年生
になるわたしは指しゃ
ぶりがやめられませ



ん。お父さん・お母さんに注意され、一大決心をして指しゃぶりをやめようとする〈へんな顔のゆびたこ〉がしゃべり出します。いっぱい指しゃぶりをすると成長して現れるのです。●かつて指しゃぶりをしていた親世代は、そういえばと思い出し、指しゃぶり真っ最中の子どもには効き目があるのかどうかは分かりませんが、面白いお話として楽しんでもらえると思います。●4歳くらいから。

■「みちとなつ」杉田比呂美／作

気の合う友だちがで
きる瞬間を軽やか
に描いた作品。●都会の
マンションで母親と暮ら
す女の子・みちと海辺の
小さな町で祖父母・両親



に囲まれて暮らす女の子・なつが会うまでを、2人の日常や好きなことを対比しながら淡々と、それでいて2人の個性が伝わってくるように絵と文を絡めて綴っています。なつがみちに声をかける場面はクライマックスで印象的。●さわやかで2人の関係が未来に続くように終えているのもステキです。●5歳くらいから。

■「ホテルイカ」

林木林／作 山口亜耶／絵

遊びどころがぎ

っしり詰まった作品。〈イカ〉を題材にした言葉遊びと絵探しが最初から最後まで続きます。●巨大なイカのホテルが舞台で主人公とな

ってめまぐるしく物語が展開します。お話について行きながらページの隅々まで言葉と絵を楽しむ…なので、ちょっと忙しい作品。●絵を隅々まで読むのが好きな子ども向け。くり返し読むと、そのたびに新しい発見があります。5歳くらいから。



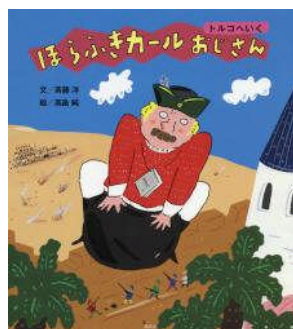
■「ほらふきカールおじさん

トルコへいく」

斉藤洋／文 高畠純／絵

シリーズ2作目で、前作「ロシアのたび」の続編。

●カールおじさんが世界中を旅して体験したというほらふき話を子どもに聞かせるスタイルを取っています。●「ほんとかなあ…」という子どもの怪しむ言葉が入りつつも、ほらを吹きまくるカールおじさんの暴走は止まりません。●とんでもない物語の展開は、ただただおもしろく、あっけにとられるばかり。斉藤洋さんと高畠純さんが組むと、ついつい笑ってしまう世界に



早変わり！中身は読んでのお楽しみに。●4歳くらいから。ひとり読みよりも読んでもらった方が断然楽しい！

■「ぼくのしっぽは？」

しもだともみ／作

物語の始まりは、「どうして ぼくには しっぽがない

んだろ？だれか すてきなしっぽ くれな

いかな…」●最初は犬からしっぽをもらいます。ぼくの気持ちがしっぽに伝わり、フリフリよく動きます。でも、犬が戻ってきて言うには〈しっぽがないと、他の犬に自分の気持ちを分かってもらいにくい〉ので、返してください…。牛、魚、リス、サルからもしっぽをもらいますが、しっぽの便利な役割を体験するぼくと、それぞれの動物が尻尾がないばかりに感じる不便さが楽しいところ。●お話絵本でありながら、知識絵本にもなっている不思議な作品。付録として、いろいろな動物のしっぽの作り方が付いています。5歳くらいから。



■「はやくちレストラン」

もぎあきこ子／作

言葉遊びが楽しい作品。●〈はやくちレストラン〉

では、お客さんのリクエストはもちろん、お客さんのちょっとした一言に反応

して、変な名前だけれどおいしい料理をあっという間に作ります。●ダジャレまがいの言葉遊びとリズムカルな文が最後まで続き、カラフルでポップな絵とセットで楽しめます。●2人のコックが競い合うハチャメチャな料理の数々も見物です。●言葉遊びを楽しめる4歳くらいから。



■「しろくまのパンツ」

tuperatupera / 作

かわいらしくセンスあふれる仕掛け絵本。●しろくまくんが困っています。心配したねずみくんが尋ねると、パンツがなくなり、どんなパンツだったのかも忘れてしまったとのこと。●しろくまくとねずみくんは一緒にパンツを探します。2匹が右のページを見るとパンツの形の窓が浮かんでいます。ページをめくるといろいろな動物がパンツをはいて現れます。作者は2人組のユニットで、さまざまなタイプのユニークな仕掛け絵本を作っています。●パンツを題材にした仕掛けのアイデアは斬新！絵と文を組み合わせたデザインは抜群のすばらしさ。最後のページに笑えるオチが待っています。絵本を包むおまけも楽しさを増しています。●3歳くらいから。



■「たこやき ようちえん」

さいとうしのぶ / 作

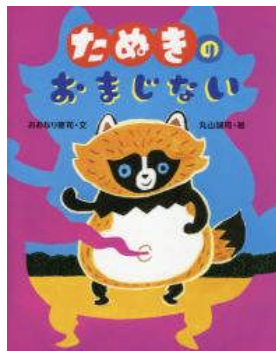
作者の絵は、どの作品でも人なつっこく、読む子どもたちを幸せな気持ちにします。●商店街の中にあるたこ焼き屋さんの前を幼稚園の子どもたちが通ります。それを見て、たこ焼きたちが「ようちえんにいきたいなあ！」と言うと、たこ焼きのおじさんが、たこ焼き幼稚園に電話をしてくれ、明日からたこ焼き幼稚園に行くことに…。翌朝、おじさんが作ってくれたお弁当を持って、6個のたこ焼き（ちゃんと名前があります）が、迎えに来てくれたたこやきよこ先生と幼稚園まで歩いていきます。お話は、この幼稚園までの通園で起きるできごとです。●後書きで、作者がお子さんの通園がとても大切な思い出だったことを綴っています。●たこ焼きたちと一緒に通園、イコールちょっとした冒険をお楽しみください。●3歳半くらいから。



■「たぬきのおまじない」

おおなり修司 / 作 丸山誠司 / 絵

昔からある〈たぬき〉から〈た〉を抜く言葉遊びを使った作品で、〈た〉を抜いた絵の変化を楽しむお話です。●いたずらたぬきの口ぐせは、「〈た〉をぬきゃ たぬきのなかまいり ぼん」。お話の始まりは、襲ってくるタカの〈た〉を抜いて虫の〈蚊〉に…。盗賊たちの〈宝箱〉を〈空箱〉にしてから物語は急展開。盗賊とタヌキの追いかっこが始まります。●〈た〉を抜いていくとスピード感あふれ、場面がめまぐるしく変わり、絵を読む物語になっていきます。〈た〉を足す裏技もアクセントに…。●言葉遊びが好きな子どもに、3歳くらいから。



■「デリバリーぶた」

加藤休ミ / 作

食べ物（配達）が身近になった現在だからこそこの作品。●〈デリバリーぶた〉は、どこへでも食べ物を配達します。●広い海の上で漁師が言います…「きょうは焼いた肉が食べたいな」。すると、デリバリーぶたは、焼きたての焼き鳥を届けます。世界一高い山に登った登山家たちは温かいものを食べたい、お城のお姫さまは、ランチパーティで大勢に喜んでもらえる食事を…デリバリーぶたは思いがけない食べ物を届けます。●時間や空間を飛び越え、ビックリするような場所へビックリする食事を持って現れる意外性がおもしろさにつながっています。●4歳くらいから。



